

## 患者さんの権利

福井循環器病院で医療を受けられる患者さんには次のような権利が保障されます。

- 1. 個人としてその人格を尊重される権利**  
患者さんが、ひとりの人間として、その人格・価値観などが尊重される権利があります。
- 2. 良質で高度な医療を公平に受ける権利**  
患者さんは、どなたでも平等かつ公平に、良質で高度な医療を継続して受ける権利があります。
- 3. 十分な説明を受ける権利**  
患者さんは、病気の内容やその治療・検査などについて、分かりやすい言葉や方法で十分に理解できるまで説明（インフォームドコンセント）と情報を受ける権利があります。
- 4. 自己決定の権利**  
患者さんは、説明と情報提供を受け、充分理解・納得された上で、治療方法などを自らの意思で選択する権利、あるいは拒否する権利があります。
- 5. 選択の自由の権利**  
患者さんは、医療機関を自由に選択・変更する権利と、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 6. 情報の開示を求める権利**  
患者さんは、自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 7. プライバシーの保護と秘密を保持される権利**  
患者さんは、病院内でのプライバシーを守られる権利があり、診療の過程で得られた個人情報や医療上の秘密を厳守される権利があります。

患者さんには、良質で安全かつ効率的な医療の提供を受けて頂くために次のことをお願いいたします。

- ◎ご自身の健康に対する正しい情報の提供と医療への積極的なご参加
- ◎他の患者さんの診療や職員の業務に支障をきたさないためのご協力
- ◎療養上、必要な制約を受けることへのご理解

## 地域医療支援病院

医療法人 福井心臓血管センター

# 福井循環器病院

〒910-0833 福井市新保2丁目228番地  
TEL:0776-54-5660(代)

- ホームページ <http://www.fcvc.or.jp/>
- E-メール [heart-hospital@fcvc.or.jp](mailto:heart-hospital@fcvc.or.jp)



## 診療案内

### 診療科目

循環器科・心臓血管外科、消化器科、呼吸器科、内科、外科、小児科、眼科、リハビリテーション科、小児外科、麻酔科、内分泌科（糖尿病）

### 診療指定

保険医療機関、国保医療取扱機関、労災指定医療機関、生活保護法指定医療機関、結核予防法指定医療機関、身体障害者福祉法指定医療機関、原爆被爆者一般疾患医療機関、救急告示病院

### 保険診療届出事項 (基本診療料の施設基準)

- 一般病棟入院基本料（7対1入院基本料）
- 臨床研修病院入院診療加算
- 救急医療管理加算
- 診療録管理体制加算
- 医師事務作業補助体制加算（75対1補助体制加算）
- 急性期看護補助体制加算（50対1）
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 栄養管理実施加算
- 医療安全対策加算1
- 感染防止対策加算2
- 退院調整加算
- 救急搬送患者地域連携紹介受入加算
- 特定集中治療室管理科1
- データ提出加算
- 入院食事療養（I）

# ほっと

2013.1  
第8号

## 福井循環器病院連携通信

(財)日本医療機能  
評価機構認定病院



福井循環器病院は、(財)日本医療機能評価機構が定める認定基準を達成していることを証する認定証の交付(平成20年3月17日付)を受けています。

## 理念

私たちは いついかなる時も  
自分たちの持てる力を 十分に発揮し  
最先端の医療を 提供できる様に 常に研鑽を積み  
患者さんに豊かな人生を 提供いたします

## ご挨拶

地域医療連携室 主任  
金森 範子



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

当院地域医療連携室は平成15年6月に設置され、同時に私も配属となり早いもので9年が経ちました。今までは事務職員4名でありましたが、昨年4月より地域医療連携室の充実を図るため、新たに看護師長1名、医療ソーシャルワーカー3名が配属され、新体制でのスタートとなりました。狭い部屋ではありますが、そのおかげで情報が密になり、外来から入院患者さんまでの情報がすぐ得られ、以前より地域医療連携室としての機能が徐々に果たせてきているのではないかと思います。

日頃、先生方におかれましては当院の前方支援、後方支援に多大なご協力を賜り大変感謝しております。至らない点多々あると思いますが、今後も病診連携、病病連携、つながる・つなげる窓口としてスムーズな連携を目指し、スタッフ一同取り組んで参りたいと思います。これからもよろしくお願ひ致します。

## 福井循環器病院 地域医療連携室

受付時間/平日 8:30~17:00  
土曜 8:30~13:00  
TEL:0776-54-5761(直通)  
FAX:0776-54-5977(専用)

※左記、受付時間以外の電話・FAXは  
下記番号までお願ひ致します  
TEL:0776-54-5660(代表)  
FAX:0776-54-5977(時間外外来)

# 心臓・大血管手術 10000 例に寄せて

副院長 心臓血管外科 堤 泰史



当院は、日本の心臓外科のパイオニアである故榊原任先生が、「福井の地に循環器専門病院が出来れば、福井県民のみならず北陸四県、京都、滋賀、岐阜などの住民にとって非常に福音となろう」との要請に応えられ、有志の人たちの支援の元に開設された病院であります。開院は昭和42年9月16日まで遡ります。



図1) 開院当時 (昭和42年9月16日)

当初は職員50名足らずの本当に小さな病院でしたが、現在では350名を優に超し、それに伴い手術症例も増加の一途をたどり、とうとう本年11月に心臓大血管手術が10000例を突破しました。6歳男子の動脈管開存症の手術で始まった当院の手術であります。開心術としての1例目は心室中隔欠損症の7歳女児でありました。当初はこれらの例の如く先天性心疾患の手術が殆どで、後天性の疾患は成績も悪く非常に大変なものでした。それが1990年頃を契機に生活習慣病の台頭で冠動脈バイパス術をはじめとする成人開心術が飛躍的に伸び、昨年1年間だけでも総数600例を超す手術症例となってきております。

また心臓血管外科では、ここ数年真の病院の実力を計る年間開心術数においても300例に到達せんかの状況であります。これは全国的にも恥ずかしくない症例数と考えます。開院以来45年間我々スタッフは病院のミッションを引き継ぎ、県民の皆様の期待に応え

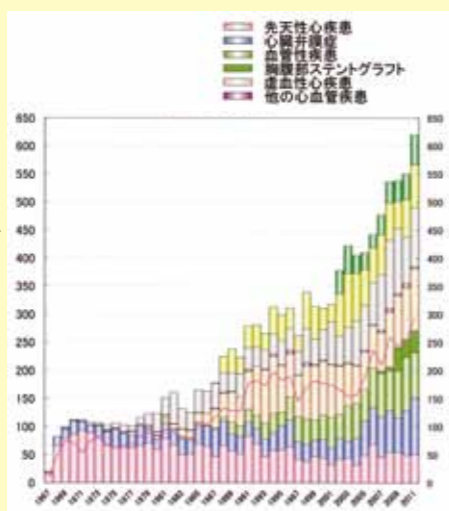


図2) 手術数の経年的変化

るべく、更に身を締め精進を怠ってはならないと考えております。さて、当院にとって10000例は大きな区切りではありますが、次の時代の心臓血管外科の動向はどうでしょうか？今後も従来の手術を更に安全な治療へ技術、管理の向上を図ることは言うまでもありませんが、ステントグラフトに代表される低侵襲化、特に大血管領域では開胸開腹手術とステントグラフト技術をうまく合体させ、より高度で低侵襲な

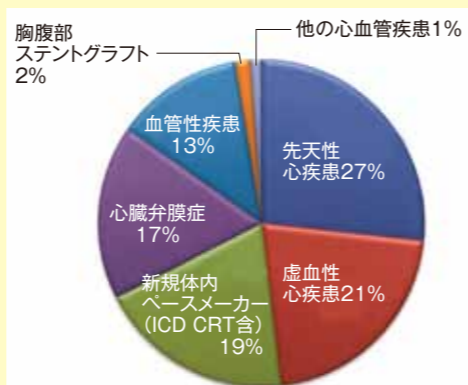


図3) 手術10000例疾患別分類

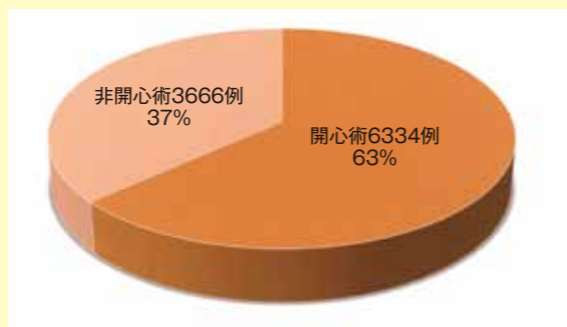


図4) 開心術の割合

手術が登場して参りました。また、最近増加の一途をたどっている高齢者大動脈弁狭窄症を対象とした経皮的動脈弁置換術 (Transcatheter Aortic Valve Replacement: TAVR) の出現は、1つのパラダイムシフトとなり得るものでしょう。特に法的規制の緩いヨーロッパでのTAVRの伸びはすさまじいものがあります。従来の大動脈弁単弁置換術でも死亡率は3%以下であり、決して見劣った手技とは考えておりませんが、手術時機を失した高齢の患者さんや、患者さん強い希望により低侵襲化の波は避けられないものと考えております。これらにすべて対応するには、まずハード面での充実、いわゆるハイブリッド手術室 (カテーテル機能と一般手術室の機能を併せ持った特殊な手術室) が必要となります。この動きは全国的にも徐々に進行しつつあり、その流れはいずれ福井にも押し寄せ

ると思われ、当院では早速その準備に取りかかっております。この分野に携わる医師は、外科内科のどちらにも属さない特殊な分野の技術集団が理想でしょう。現在は各科がそれぞれの特性を生かし対応しておりますが、今後これらの領域においてはさらなる協力体制が必要となってくるので、ある教育機関では内科と外科が歩み寄って一つの講座を作ってしまうという流れになっております。そこで育つ医師が当院でも活躍する時代が数年後には実現すると思っております。

他方、当科にとって当面の課題は、高度心不全患者に対する植え込み型補助人工心臓の認定資格の取得であります。北陸地方ではまだ無く、当院が先陣を切ろうとしている段階ですが、現在の据え置き型から植え込み型に移行することで患者さんのQOLが向上することは間違いありません。もう一つの課題は、小児外科手術に対し、その専門集団を作り上げることであります。大都市にはそれぞれ小児専門病院が存在しておりますが、これも当地方には残念ながら一つもありません。心臓手術を中心とした小児外科センターの設置が望まれるところであります。

まずはこれらの課題を実現し、高度な循環器先進医療を目指し病院に課されたミッションを果たしていけることを望んでおりますが、それには当院が健全な状態で存続していかなばなりません。今後20000症例を目指す為にも近隣の諸先生方の今まで同様のご支援をよろしくお願い致します。大震災を経験し社会不安が募る中で、とかく世の中が暗くなりがちですが、こういうときにこそ最善の医療を提供していく気概が必要でしょう。最後に我々が座右の銘としている言葉を記し、勇気を奮い立たせたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

*Learn from Yesterday, (過去から学び)*

*Live for Today, (今日の為に生き)*

*Hope for Tomorrow. (未来に希望を持て)*

*A. Einstein*

# 臨床検査科の紹介 『日々新た!』

臨床検査科 技術長 伊藤 善祐



今回は臨床検査科を紹介させていただきます。当科は検体検査部門と生理検査部門から構成され、臨床検査技師18名が従事しています。

検体検査部門では外来採血を技師が行っています。そして、臨床からの多岐にわたる専門的なニーズに応えられるように、一般・血液・生化学・免疫感染症・薬物濃度・細菌・輸血の各種検査を幅広く実施しています。そのような中、検査の“質”の向上という観点から、検査データの精度管理に加えて「採血・検体受付から結果報告までの時間 (TAT: turn-around time)」の管理を行い、緊急検査はもとより通常の検査においても迅速な結果報告を目指しています。また、チーム医療の一員として、技師が院内感染対策チーム (ICT) や栄養サポートチーム (NST) のラウンドに参加し、患者さんを対象とした生活習慣病教室にも参加しています。



一方、生理検査部門では、特に超音波検査 (心臓・血管) に力を入れています。検査装置の充実を図ると共に技師の養成を行っており、現在5名が日本超音波医学会認定超音波検査士 (循環器領域) を取得しています。昨年1年間の実施件数は心エコーが約6,800件、頸動脈エコーが約1,100件となっております。

日頃から“検査待ち時間の短縮”“検査精度の向上”“詳細な結果報告”に努めています。このエコー検査では、知識・技術の習得を目指して他施設からも技師が研修にいられています。



そのほか、ホルター心電図は多くの要望に応えられるように記録器を配置し、取り外し後直ちに解析を行っています。また、睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の診断に必要なPSG精密検査は週2回実施するなど、いつでも医師の指示と患者さんのご都合に沿えられるように配慮しています。

当科では、患者さんに安心して検査を受けていただき、臨床に有用なデータを迅速に提出できるように、これからも『日々新た!』をモットーに研鑽してまいります。